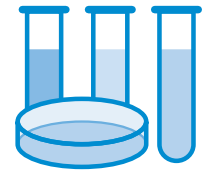


細菌検査統計報告 (当検査センター受託分)

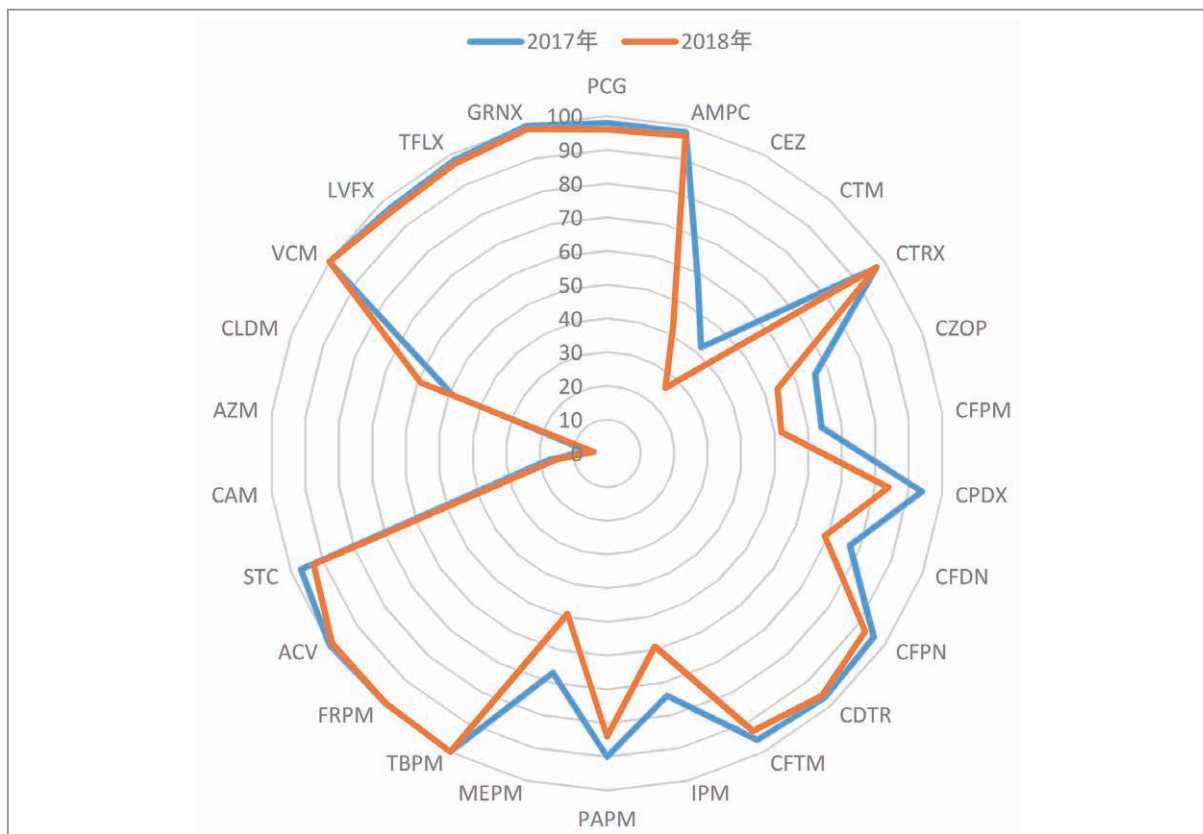


当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況及び細菌薬剤感受性情報を一部取り上げご報告いたします。全体の情報は当検査センターホームページに掲載されていますので、併せて診療にお役立ていただけたら幸いです。

今回は、過去年単位での薬剤感受性情報、耐性率を掲載いたします。

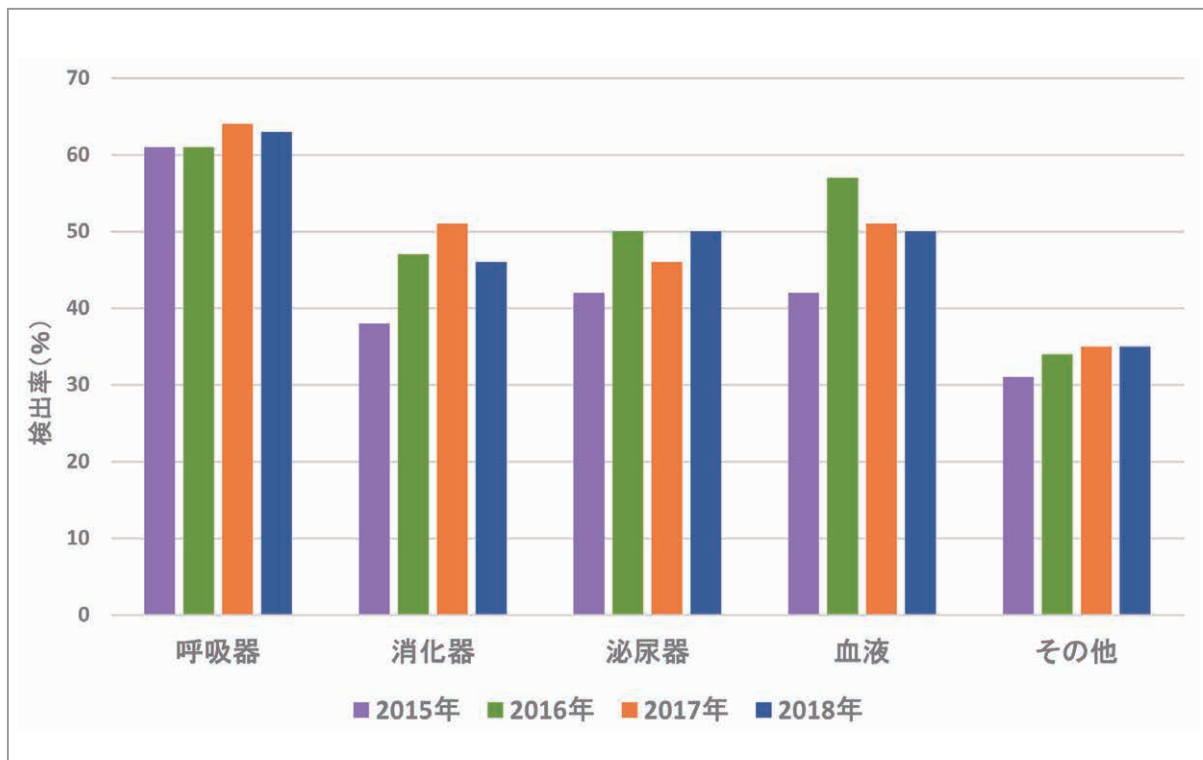
【薬剤感受性情報】

Streptococcus pneumoniae 薬剤感受性率 (2017年 2018年)



代表的な菌種での薬剤感受性率は、2017年と2018年を比較して大きな差があるものはありませんでした。最も差を認めた菌種が、上記グラフで示した Streptococcus pneumoniae です。カルバペネム系 (MEPM、PAPM、IPM) とセフェム系 (CEZ、CTM、CZOP、CFPM、CPDX、CFDN) にて僅かですが感受性率の低下を認めています。PRSP (ペニシリン耐性肺炎球菌) の検出はありませんが、今後も感受性率の動向を注視していく必要があります。

検査材料別の MRSA 検出率 (2015~2018年)



上記のグラフは当検査センターで2015年から検出されたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) の検査材料別検出率を示しています。呼吸器系材料から検出される黄色ブドウ球菌の約60%以上は、MRSA です。年単位で大きな変化はありませんが、呼吸器系、消化器系にて増加傾向にあり院内感染、市中感染に注意が必要です。

当検査センターホームページでは細菌検出状況(検査材料別)、細菌薬剤感受性情報(菌種別)、薬剤耐性菌分離状況についての情報をご覧ください。

<http://www.labo.city.hiroshima.med.or.jp/>
検査科微生物係